

# ヤマガラがつくるコケの<sup>ふとん</sup>布団

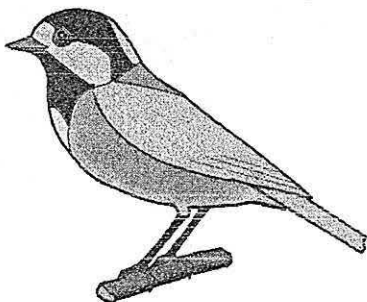
まだ山に雪が残る早春、<sup>ぞうきばやし</sup>雑木林で耳をすませていると小鳥たちのさえずりが聞こえてきます。山の小鳥たちの<sup>こい</sup>恋の<sup>きせつ</sup>季節のはじまりです。うまくカップルになると、さっそく<sup>わす</sup>2羽は<sup>す</sup>巣づくりをはじめます。

4月、<sup>ぞうきばやし</sup>雑木林でヤマガラが<sup>すばこ</sup>巣箱にコケ植物をせっせと運び入れるのを見ることがあります。コナラの木にかけられた<sup>もくせい</sup>木製の<sup>すばこ</sup>巣箱は、<sup>そこ</sup>底に<sup>あな</sup>穴が開いているようで、せっかく運んだコケはパラパラとこぼれ落ちていました。また、古くなって木から落ちた<sup>すばこ</sup>巣箱を見つけ、中をのぞくと、たくさんのコケがふかふかに<sup>し</sup>敷きつめられ、まるで敷き<sup>ぶとん</sup>布団のようでした。おそらくヤマガラが使っていたものでしょう。ヤマガラは、<sup>たまご</sup>卵を<sup>う</sup>産み<sup>さんざ</sup>ヒナを育てる場所（産座といいます）にコケを使うことがわかりました。

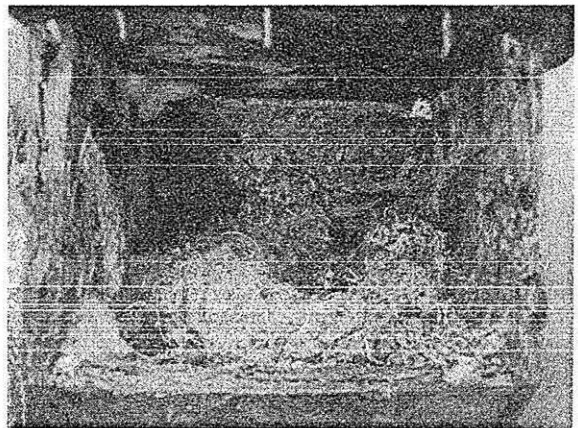
ヤマガラが使っていたコケを調べると、<sup>りょう</sup>量が多かったのは<sup>うらめん</sup>裏面の<sup>くわ</sup>図の4<sup>しゅるい</sup>種類でした。どれも富山の<sup>とやま</sup>雑木林でふつうに見られるものでした。これらのコケは横にはって生長し、かたまって生えているので、緑の小さなじゅうたんのように見えます。ヤマガラはそれをクチバシですくい取って運ぶようです。

ところで、<sup>す</sup>巣の<sup>ざいりょう</sup>材料にコケが使われるのにはいくつか理由がありそうです。まず、コケはヤマガラが<sup>す</sup>巣づくりする林に生えているので取ってきやすく、クチバシで運びやすい軽さです。

しかし、林には軽くて運びやすそうな木の葉っぱもたくさんありますね。何ががうのでしょうか。



ヤマガラ



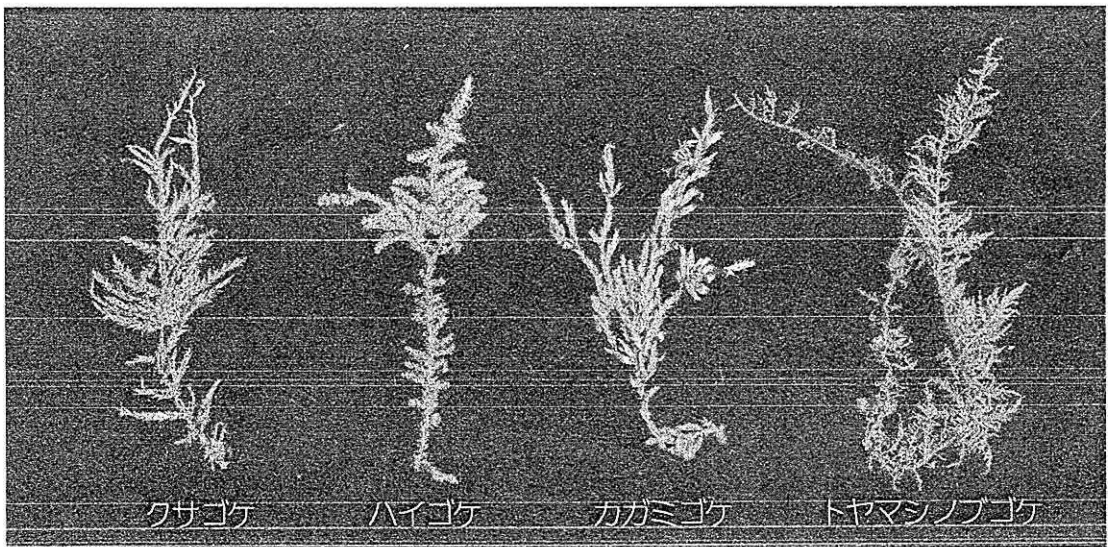
木箱の古い巣

葉っぱは青々<sup>あおあお</sup>として気持ちよさそうに見えますが、くさると大変<sup>たいへん</sup>です。カビが生え、卵<sup>たまご</sup>やヒナは病気になるでしょう。一方、コケはちぎられて破片<sup>はへん</sup>になっても、葉っぱのようにはくさりません。コケは破片<sup>はへん</sup>になってもしばらく生きつづけます。さらにカビから身を守る物質<sup>ぶっしつ</sup>を持っているので、くさりにくいのです。

また、葉っぱが乾燥<sup>かんそう</sup>して枯れると、パリパリになり、少しの力でバラバラにこわれてしまいます。ヤマガラが使っていたコケは、乾燥<sup>かんそう</sup>してもこわれることなく、ふかふかになります。コケには根らしい根がなく、水を体の表面から吸収<sup>きゅうしゅう</sup>します。そのため、表面から水が抜けやすく、乾きやすくもあります。しめったり乾いたりのくり返しが、自然<sup>しぜん</sup>の中でもよくあるので、乾燥<sup>かんそう</sup>しても丈夫<sup>じょうぶ</sup>な体のつくりになっています。

コケがもつ特長<sup>とくちょう</sup>は、鳥が巣<sup>す</sup>に使うのに、実にうまくあっているようです。巣の材料<sup>ざいりょう</sup>にコケを使う鳥は、ほかにメジロ、オオルリ、ミソサザイなどがあります。鳥の巣は種類<sup>しゅるい</sup>によって大きさや形がちがひ、使われる材料<sup>ざいりょう</sup>もさまざまです。巣づくりや古い巣<sup>す</sup>を見つけたら、何を材料<sup>ざいりょう</sup>にしているのかもそつと見てみてください。きっと、おもしろいことが見つかるにちがひありません。

(坂井 奈緒子)



ヤマガラが産座に使っていたコケ



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL.076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成17年3月1日